

1. 地域の概要

対象地域は、標高 960～1,000m の冷温帯落葉広葉樹林の自然植生地域であるが、スギ・カラマツの人工林をはじめヤマグワやクリなど里山利用の広葉樹が多く見られることから過去に人為的な改変が行われた山林と推定される。下層は、上層木の林冠状況や地質条件などにより、クマイザサの繁茂するエリア、クサソテツやオシダなどのシダ類が優占するエリア、ミゾソバやタネツケバナ・ウワバミソウなど湿潤な環境を好む草本類のエリア、スギ林床など比較的暗い環境に広がるオクノカンスゲが優占するエリアなど多様な下層植生が見られ、季節によって開花する山野草や山菜などを楽しむことができる。

2. 特徴的な植物

概ね 20m 以上の高木層には、植栽されたスギや落葉広葉樹のクリ・シナノキが比較的多く、オニグルミ・ヤマハンノキ・トチノキ・ハリギリ・ウリハダカエデ・イタヤカエデ類などが印象に残った。シラカンバ・ミヤマザクラ・ヤマナシ・キハダは現時点で 1 本しか確認できなかったため注目して観察するのも興味深い。

高木層に連続する 5～20m 程度の亜高木層には、ウワミズザクラ・カンボク・ヤマグワ・シナノキ・ウリハダカエデ・ハウチワカエデなどがクマイザサの繁茂するエリアに比較的多く見られた。山菜として利用されるタラノキが 1 本だけ確認できたが、環境的にも今後の健全な生育は懸念される。

約 5m 未満(1m 程度まで)の低木層には高木～亜高木層の幼木をはじめ 40 種類程度の多様な木本類が生育しているが、密度としては全般的に薄く、場所によってカンボク・ウワミズザクラ・シナノキ・タマアジサイなどがよく見られた。

草本層(1m 未満程度)は、概要で述べたように生育環境によって部分的に群生・密生または散生する 60 種類以上の木本・草本植物が確認できた。このうちシダ類が 13 種類確認でき、形の美しいクジャクシダが特に印象的であった。山菜として利用できるクサソテツ・ワラビ・ウワバミソウ・タチシオデ、山野草として花が観察できるオオタチツボスミレ・フタリシズカ・クルマバソウ・ラショウモンカズラ・ルイヨウボタン・シロバナエンレイソウ・ササユリなど季節によって林床の印象が異なるため、特に春から初夏にかけての短い間隔での変化が興味深い。

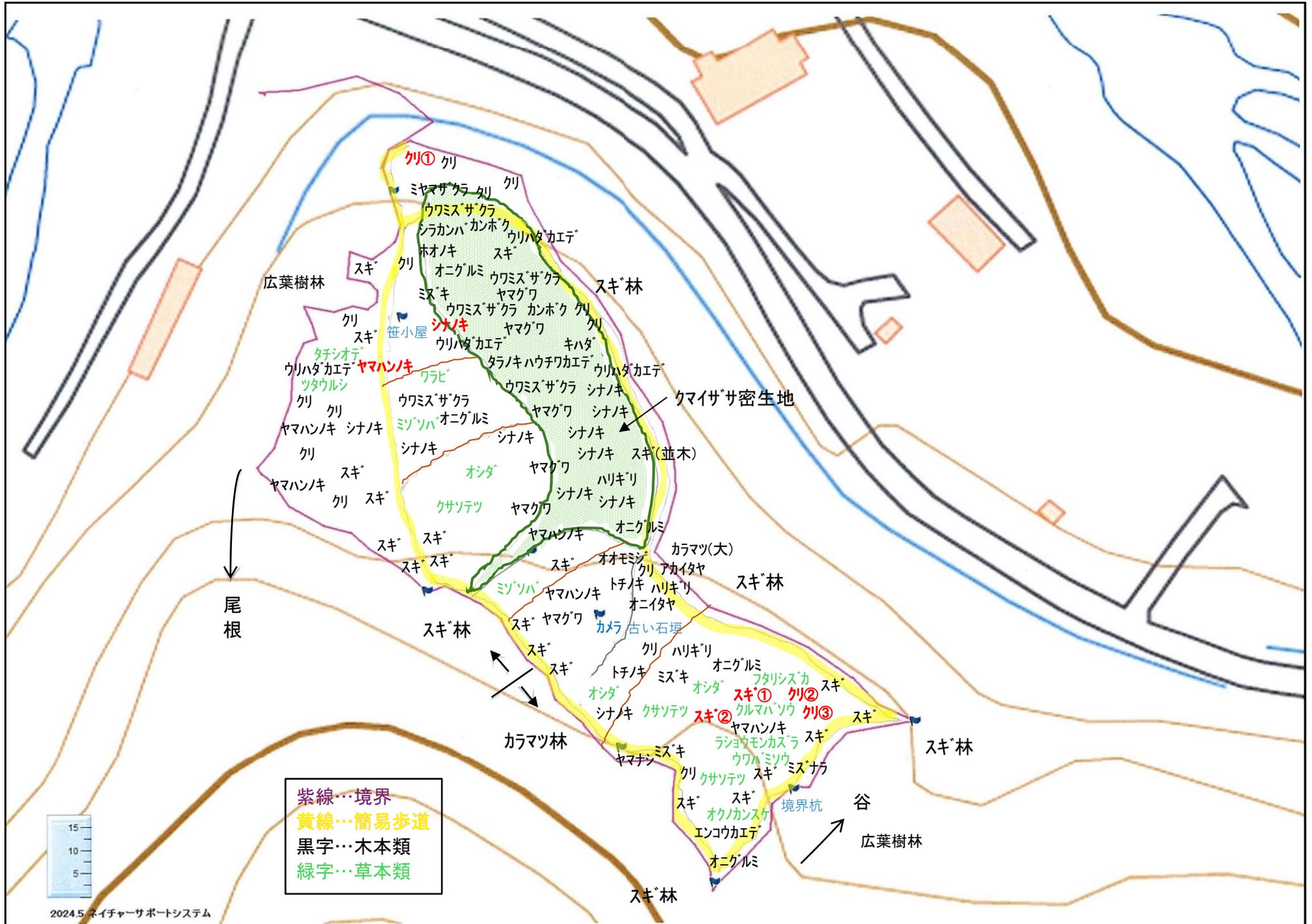
3. 利用・整備など

材や葉・実などクラフト材料としての利用や山菜、花の鑑賞、生態的な観察・調査など目的に応じた整備や管理を適宜行なうことで山林の有効的な活用が図られるため、スギ人工林やクマイザサの密度管理を始め、樹勢の弱い樹木や枯死木の除去などを下層植生の影響を考慮しながら慎重に手入れを行なうことが肝要である。

なお、整備の目安として高木層の代表的な樹木を計測したので以下に記す。

クリ①	胸高直径	50.1cm	樹高	23.2m	※幹にコブ
クリ②	胸高直径	53.6cm	樹高	28.3m	
クリ③	胸高直径	42.3cm	樹高	30.1m	※3本株
スギ①	胸高直径	51.4cm	樹高	35.6m	
スギ②	胸高直径	53.3cm	樹高	35.5m	
シナノキ	胸高直径	31.4cm	樹高	16.5m	
ヤマハンノキ	胸高直径	47.4cm	樹高	24.2m	※梢端が少し異常

高山市奥飛驒温泉郷福地 新岐阜興業(株)山林 植生概要図



紫線…境界
 黄線…簡易歩道
 黒字…木本類
 緑字…草本類

